

京都府内の職場における熱中症の発生状況（令和 6 年）

令和 7 年 5 月 2 日

京都労働局健康安全課

1 職場における熱中症（業種別死傷者数）の発生状況

令和 6 年の京都府内における、職場での熱中症による休業 4 日以上の上業務上疾病者数（以下「死傷者数」という。）は、猛暑の影響等により 26 人となり、昨年（18 人）よりも大幅に増加しました。

なお、熱中症による死亡災害は発生しませんでした。

表 1 業種別発生件数（令和 6 年）（人）

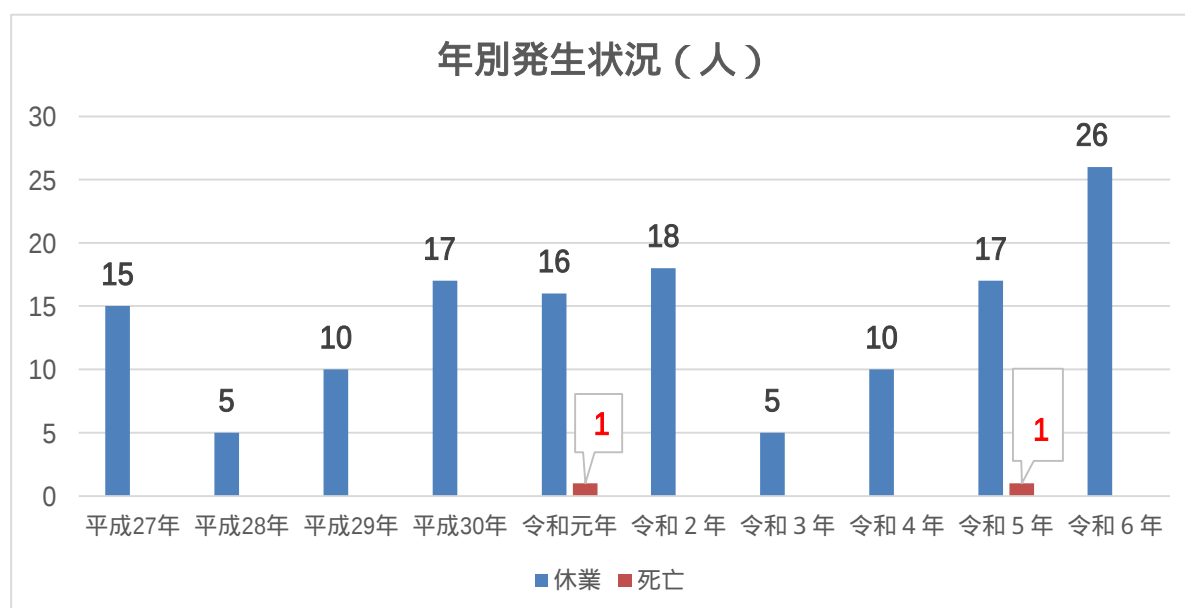
業 種	製造業	建設業	運輸業	農林 水産業	商業	警備業	その他の 業種	計
令和 6 年 死傷者数	1 (0)	9 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (0)	4 (0)	5 (0)	26 (0)

（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。

2 死傷者数の推移（平成 27 年～令和 6 年）

過去 10 年間の死傷者数をみると、平成 27 年に 15 人と急増しました。平成 30 年及び令和元年は 17 人（うち、令和元年に死亡 1 人）、令和 2 年は 18 人に微増し、令和 3 年は 5 人に減少しましたが、令和 5 年は 18 人（うち、死亡 1 人）、令和 6 年は 26 人と過去最も多い人数に急増しています。

グラフ 1 過去 10 年間（平成 27 年～令和 6 年）の死傷者数の推移



3 業種別発生状況（平成 27 年～令和 6 年）

過去 10 年間の業種別の死傷者数をみると、**建設業**が最も多く、次に**運輸業**、**警備業**となっています。死亡者数は、製造業で 2 人発生しています。

表 2 業種別発生状況（人）（平成 27 年～令和 6 年）

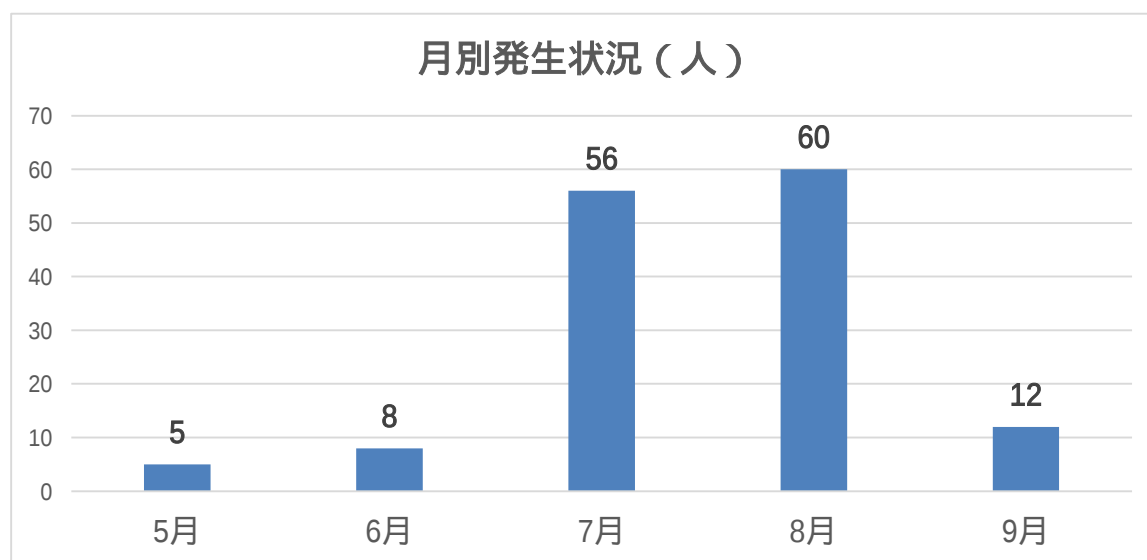
業 種	建設業	製造業	運輸業	警備業	商業	清掃・ と畜業	農林 水産業	左記 以外	合 計
H27～R6 ()内は 死亡者数	27 (0)	13 (2)	25 (0)	18 (0)	15 (0)	10 (0)	7 (0)	26 (0)	141 (2)

4 月・時間帯別発生状況（平成 27 年～令和 6 年）

（1）月別発生状況

過去 10 年間の月別の死傷者数では、82.2%が 7 月及び 8 月に集中しています。

グラフ 2 過去 10 年間(平成 27 年～令和 6 年)の月別発生状況

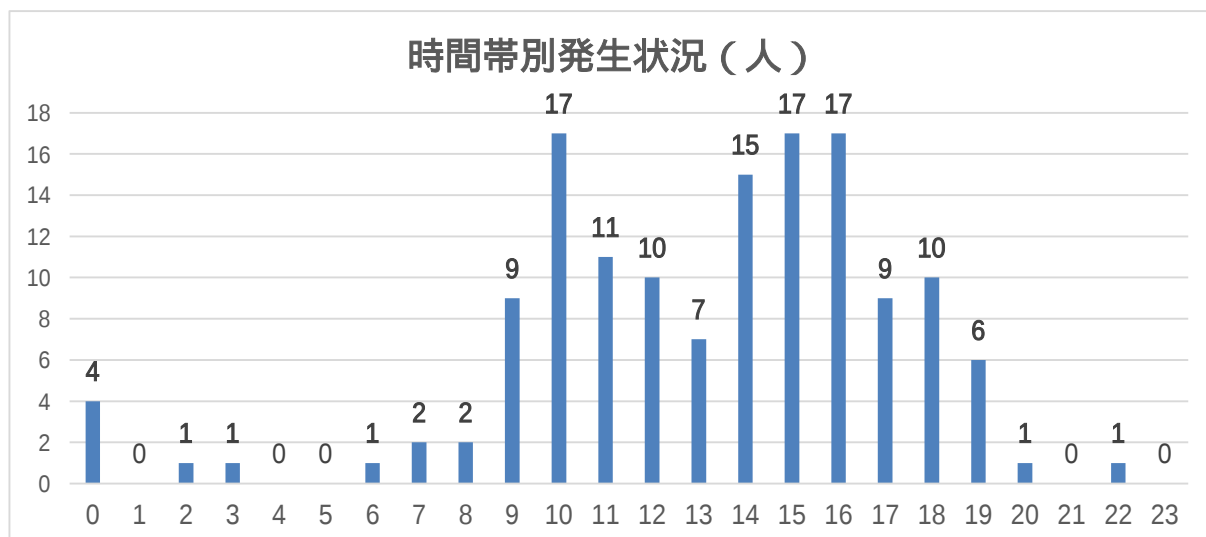


（2）時間帯別発生状況（平成 27 年～令和 6 年）

過去 10 年間の時間帯別の死傷者数は、10 時台、14～16 時台に多く発生しています。

また、日中の作業終了後に帰宅してから夜間に体調が悪化して病院に搬送されるケースも認められます。

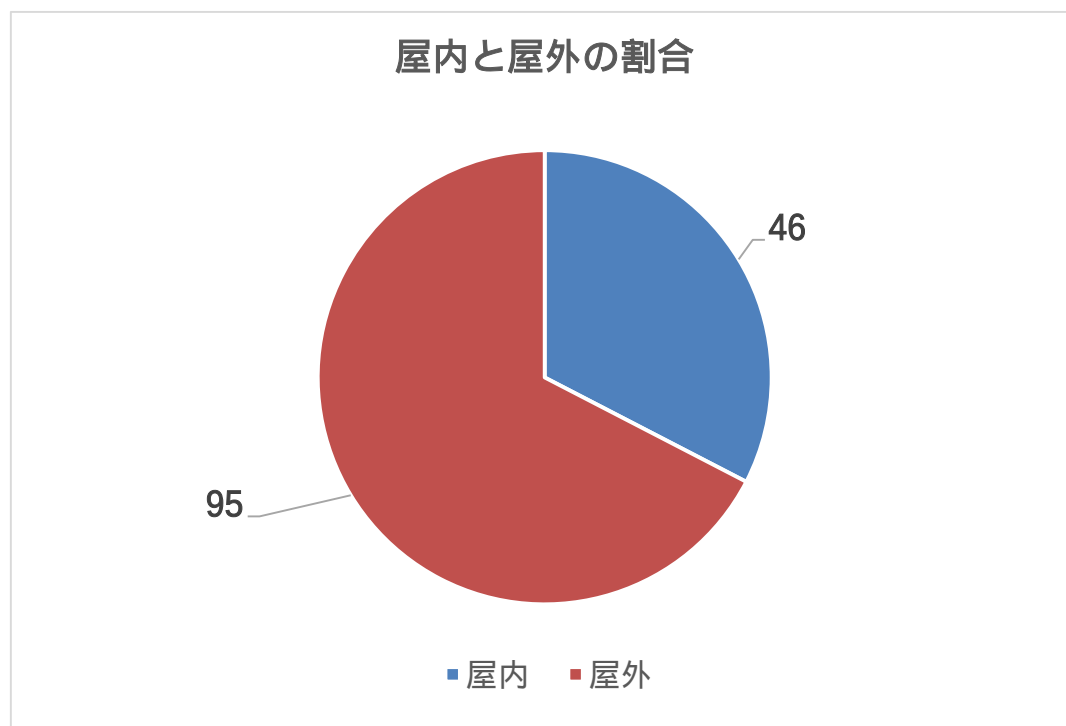
グラフ 3 過去 10 年間(平成 27 年～令和 6 年)の時間帯別発生状況



（３）屋内作業での発症（平成 27 年～令和 6 年）

過去 10 年間の死傷者数 141 人のうち 46 人(32.6%)は、屋内作業で発生しており、熱中症は必ずしも屋外での作業でのみ発症するわけではないことがわかります。

グラフ 4 過去 10 年間の屋内、屋外作業の割合



死傷者数のおよそ 3 人に
1 人が屋内作業となっており、
死亡災害の 2 件は屋内 1 件、
屋外 1 件となっています。

< 参考 >

W B G T 値と気温、相対湿度との関係

		相对湿度(%)																	
		20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	
気温(℃)(乾球温度)	40	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	
	39	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	43	
	38	28	28	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	42	
	37	27	28	29	29	30	31	32	33	34	35	35	36	37	38	39	40	41	
	36	26	27	28	29	29	30	31	32	33	34	34	35	36	37	38	39	39	
	35	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	38	38	
	34	25	25	26	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	36	37	37	
	33	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	32	32	33	34	35	35	36	
	32	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	31	31	32	33	34	34	35	
	31	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	30	30	31	32	33	33	34	
	30	21	22	23	24	24	25	26	27	27	28	29	29	30	31	32	32	33	
	29	21	21	22	23	24	24	25	26	26	27	28	29	29	30	31	31	32	
	28	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	28	28	29	30	30	31	
	27	19	20	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28	29	29	30	
	26	18	19	20	20	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27	28	28	29	
	25	18	18	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26	27	27	28	
	24	17	18	18	19	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25	26	26	27	
23	16	17	17	18	19	19	20	20	21	22	22	23	23	24	25	25	26		
22	15	16	17	17	18	18	19	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25		
21	15	15	16	16	17	17	18	19	19	20	20	21	21	22	23	23	24		
WBGT値		注 意 25℃未満				警 戒 25℃～28℃				厳重警戒 28℃～31℃				危 険 31℃以上					

(ここで、28℃～31℃は、28℃以上31℃未満の意味)

(日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針」Ver.1 2008.4 から)

熱中症による死亡災害一覧（平成 27 年～令和 6 年）

No	発生年 時間帯	業種	被災者概要 事業場規模	災 害 の 概 要
1	令和元年 17 時	製造業 紙加工品製造業	男 40 代 100～299 人	工場内で製造作業中、熱中症で救急搬送された。 (屋内作業)
2	令和 5 年 9 時	製造業 機械（精密機械を除く）製造業	男 40 代 201～500 人	出張先の宿泊ホテルから取引先に徒歩で移動中、熱中症となった。 (屋外作業)

熱中症とは

高温多湿な環境下において、体内の水分と塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして、発症する障害の総称。めまい・失神、筋肉痛・筋肉の硬直、大量の発汗、頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐・倦怠感、意識障害・痙攣・手足の運動障害、高体温などの症状が現れる。死亡に至ることもある。

